公住建設でのべ６万人、学校耐震化でのべ19万人の雇用を

道の責任で

４年で 公住10棟300戸 全小中学校の耐震化を

申し込みが殺到している公営住宅の建設を急ぎます。

学校の耐震化はわずかに１／４、これでは子どもたちの安全は保てません。宮城や秋田のように、道独自の助成もして計画的に行います。耐震化や修繕は、港湾などの大型事業と違い、すべての工事が地元業者の仕事になります。

国の補助金を活用すれば、毎年度の負担は公住１棟で１４００万円、学校の耐震化は１校２５００万円で済みます。負担と比べ経済効果も高いことがはっきりしています。

特養150床をふやせば、150名のの常用雇用が生まれます

特養待機者が1,000人越える在宅で介護度4.5で待っている人は175人

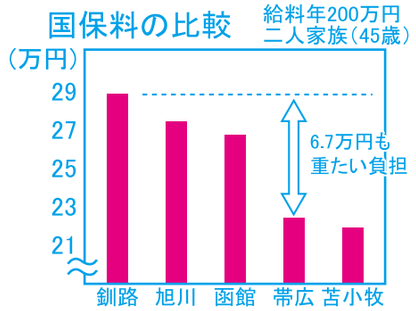
来春に文苑の北に特別養護老人ホームがオープンしますが、それでも多くの待機者が残されます。特養の建設工事は地元業者に。そしてオープン後は、たくさんの介護職員が雇用されます。

20万円以上の住宅リフォームに、道と市で２割の助成を!!

助成額の１０倍の仕事をつくれる住宅リフォーム助成事業、各地で競って導入されています。リフォームを頼む市民にも、請け負う業者にも喜ばれる制度です。

冷たい政治から、住民の福祉を守ります

国保ひとり１万円の引き下げ



１２億円の道の単独補助が打ち切りになり、釧路の国保料もうなぎのぼりです。これを復活させて、市がためこんだ基金4.5億円の一部を活用すれば、引き下げが可能です。

子どもとお年寄りの医療費負担を減らします

共産党は子どもの医療費助成を小学生の入院にも拡大しました。今度は通院も対象に広げます。

後期高齢者の保険料負担の軽減をはかります。

介護保険料・利用料を軽減します

道の助成で利用料は半分に、１０億円の基金を使い、保険料を引き下げます。

新医学部の臨床研修を釧路へ

日赤・労災病院と連携して新たな医学部設置の検討が始まりました。新しい奨学金制度をつくることも含め、この計画を後押しします。

日赤病院

労災病院

発達障がい者支援センターの誘致を

道内５ヶ所目の発達障がい者の総合的な相談・支援の拠点施設の設置を求めます。

「発言力」バツグン 共産党道議団

もっと大きく。釧路からも

共産党道議団の質問回数は自民の７倍、民主の６倍、公明の５倍。この発言力で、小学校低学年の少人数学級、妊婦健診の拡大などを実現、ムダづかいの典型「大規模林道建設」を中止に追い込みました。

ＮＰＯ法人が選ぶ「道議会仕事人ランキング」でも一位、二位を独占しました。

道議の海外視察を廃止します

（北海道新聞９月20日付けより）

任期切れを前に地元道議は欧州を視察、別の民主党道議の飛行機運賃は54万円でビジネスクラス、庶民感覚からかけ離れています。

全国では、海外視察の凍結・廃止が相次いでいます。どうしても必要というなら、年６３６万円も支給されている政務調査費を使うのが当たり前です。